

## 第2期標茶町創生総合戦略について

標茶町役場企画財政課企画調整係

### 1 はじめに

標茶町は、北海道の東部に位置し、東は厚岸町、別海町、西は鶴居村、南は厚岸町、釧路町、北は弟子屈町、中標津町に隣接しており、東西58.9km、南北60.5km、総面積1099.37㎡の広大なまちです。

地勢は、概ね丘陵地帯と平野部に大別され、釧路川、別寒辺牛川及び西別川の各流域は平坦形状であり、南東部には塘路湖、シラルト湖が広がり、釧路湿原国立公園の湿地帯が分布しているほか、北部には西別岳を含む阿寒摩周国立公園、東部には厚岸霧多布昆布森国立公園に指定されている等、世界にも誇れる大自然が広がっています。

気候は、春期から初夏にかけては冷涼で、夏は日照時間が短いですが最高気温が30℃に達する時期があります。秋は比較的晴天が続くが晩秋の早朝は冷え込み、全国の最低気温のニュースに「標茶町」の名前が流れる時期があり、冬は積雪が少ないが寒さが厳しく、夏暑く冬寒いというやや内陸的な気候です。

### 2 策定の背景及び趣旨

標茶町では、昭和に入ると国鉄釧網線や標津線の全線開通、製糖工場や製麻工場の操業開始、雪印乳業磯分内工場の完成、また昭和30（1955）年の太田村チャンベツ地区の合併などを経て、昭和38（1963）年に人口18,539人（住民基本台帳人口）を記録していますが、昭和35（1960）年代前半から日本経済が上昇に転じる中、それに伴い農村部から都市部へと労働力が流れ始め、更には製麻工場や製糖工場の操業停止等を受け、昭和59（1984）年に11,000人台となり、平成9（1997）年には10,000人を割り込みました。

このように本町では人口減少が進んでおり、今の状況では人口の増加は見込めず、今後も人口減少が進むことが予測されます。

しかし、本町がこれからも未来へ続くことは町民誰

もが望むところであり、そのために、誰もが「住んで良かった、これからも住み続けたい」と思えるまちづくりを目指すため、平成23（2011）年に町民の協力を得て策定した「標茶町第4期総合計画」を基本とし、国が2020年度を初年度として策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しながら、今後5年間の政策目標や施策の基本的方向、主な施策を定めた「第2期標茶町創生総合戦略」を策定しました。

### 3 戦略の設定人口

本町の人口は、昭和38（1963）年の18,539人（住民基本台帳人口）をピークに減少し続けており、令和5（2023）年2月末には7,200人を下回りました。平成28（2016）年に策定した「標茶町人口ビジョン」による分析では、人口減少の要因として全国の過疎地域同様、若年層の流出それに伴う少子化、高齢化のほか、転出者が転入者を上回る「転出超過」による社会減が大きく影響しており、令和27（2045）年頃には4,401人にまで減少するとされています。

こうした推計等を元に、社会減・自然減への対応として様々な施策を講じ、令和5（2024）年度には7,200人、長期的には令和28（2046）年度には5,900人となるよう人口減少対策を推進しています。

### 4 創生総合戦略の構成と施策

#### (1) 重点戦略

「標茶町人口ビジョン」の分析結果において、人口減少に大きく影響を及ぼすのは、若年層と子育て世代の流出だと示されています。

この状況を改めるためには、本町経済の主軸である酪農畜産業と、需要者であるサービス産業双方の活性化が重要となります。基幹産業である第1次産業の安定化により第2次産業、第3次産業の活性化につなが

るサイクルの確立を目指します。

単に人口の流入を促すだけでなく、様々な世代が安心して住み続けられことが必要であり、経済的な自立のためにも、いわゆる「働ける場所」の創出・確保を目指します。

人口の流出の抑制と流入の拡大は、安定した雇用が確保された中で発揮されるものであり、次の3点を重点戦略として取り組みを推進します。

### 重点戦略の施策

#### ① 基幹産業である酪農畜産業の振興

町内及び管内、管外の産業団体及び経済団体と連携し、魅力ある酪農畜産業の振興を目指すとともに、新たに設置した研修センターを核として、酪農業の持つ魅力を学んでもらい、一人でも多くの研修生が標茶町で働くことができる体制の構築を図ります。

#### 具体的な施策

・「標茶町農業研修センター」を新規就農に向けた研修と酪農体験の場とすることで担い手の育成を図り、離農戸数を抑制するとともに地域の活性化に努めます。

・しべちゃ牛乳の学校給食への提供をはじめ、酪農振興会連合会と連携した取り組みを計画し、生乳生産量拡大、牛乳・乳製品の消費拡大を図り、一次産業の活性化から多様な生産活動への推進につなげます。

#### ② 安心して子どもを産み育てることができる環境整備

出産や育児をするうえで、心配の一つとして経済的な負担をあげる夫婦が多いため、この負担感を取り除くことを目的として、子育て世代に対し経済的な支援を実施するための環境を整備します。

#### 具体的な施策

・大学生までの医療費の無料化。  
・乳児用粉ミルクや離乳食の購入に使用可能な子育て応援チケット「みるくっく券」の贈呈や、各種検診や健康づくりへの取り組みなど子育て世代への包括的な支援を図ります。

#### ③ 関係人口・交流人口の拡大と雇用の場の確保

人がその場所に住み、生きていくためには、「働ける」ということが重要であり、特に、若い世代の就労の場の確保は急務である一方、人手不足の職種も多く存在することから、標茶に「居たい」・「住みたい」と思っているすべての世代が活躍できる地域社会を目指します。

また、標茶町に多様な形で関わる人々「関係人口」を地域の力にしていくことに加え、標茶町を積極的にPRすることにより、「交流人口」の拡大と移住の動機付けなどを図ります。

#### 具体的な施策

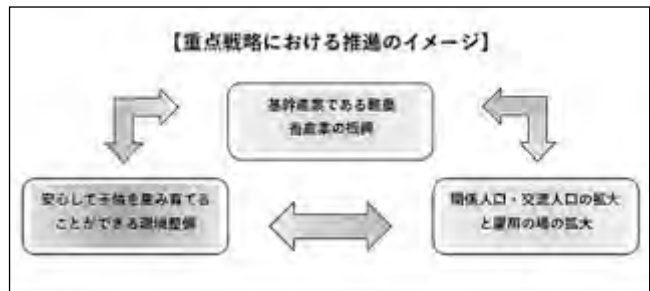
・一人一台PC端末購入補助、通学費補助などの就学・学校教育支援を行う標茶高等学校教育振興会補助事業に取り組みます。

・馬と共に暮らせる町「標茶町」を目指し、軍馬生産から続く乗用馬文化と広大な自然を活かした馬と触れ合う地域間交流事業を推進します。

・新たな特産品の開発・研究支援とともに、ふるさと納税の拡大、充実に努め、企業版ふるさと納税の取り組みも実施します。

・標茶町での新たな創業や既存事業の拡大への経済的支援を図るチャレンジショップ事業を推進します。

・首都圏からの新規就業を促進するため、移住支援金の交付を行うUIJターン新規就業支援事業に取り組みます。



#### (2) 基本戦略

人口減少、少子高齢化が進み、地球温暖化などの環境問題、地域医療の確保、新たな情報通信への対応など、多くの課題を抱えるとともに、民間投資の停滞や消費低迷などによる町税の減少、地方交付税の交付金の縮減などにより、町の財政は依然として厳しい状況にあります。引き続き行財政改革に取り組む中で、持続可能な行財政運営が必要です。このような状況の下、町民・企業・団体など力を合わせ、時代の潮流を捉えながら、本町の産業特性や個性を生かしたまちづくりを進めていくため、将来を見据え「住んでよかった、これからも住み続けたい」と思える標茶町を築くため、総合計画を基本に据えた各種施策や事業を戦略として展開して行きます。

また、次に示す基本構想を柱に戦略を策定し、まち

の将来像として掲げる「みどりとふれあいの郷 元気あふれるまちづくり」を目指します。

先人たちが積み重ねてきた歴史や文化、自然や産業の発展などを未来に引き継いでいくとともに、まちが持続的に発展し、町民が住み続けたいと思えるよう、これからのまちづくりの基本を次のとおりとします。

- ◎協働のまちづくり
- ◎住み続けたいと思えるまちづくり
- ◎元気がでるまちづくり
- ◎みどりのまちづくり

### 基本戦略の施策

#### ① 協働のまちづくり

本町では、「町民一人ひとりがまちづくりの主役」という精神を根幹として、自（町民）・共助（地域・団体）・公助（行政）を基本バランスに地域と行政とが協働でまちづくりを推進してきました。

現状の人口減少による地域コミュニティの機能低下を防ぎ、協働のまちづくりを推進し続けるためには、行政と町民や団体の間での意見の共有化が重要となります。また健全な行政運営を確立し様々な分野の行政サービスの提供を図ります。

#### 具体的な施策

・広報活動の推進として、SNSやYouTubeなど様々な媒体を活用した情報発信を行うとともに、住民と行政とが双方向に情報を共有できるよう取り組みます。

・町政懇談会や説明会、町民アンケート、まちづくりポスト、各種委員会などを活用し、住民や団体の意見を集約します。

・コミュニティ活動の推進として、町内会や地域会の主体的な活動を尊重し各種地域振興業等の支援を図るとともに、町内会や地域会と連携しながら、人口減少社会や超高齢化社会を見据えた取り組みを強化します。

#### ② 住み続けたいと思えるまちづくり

まちづくりの主役である町民だれもが、元気で健康にいきいきと暮らしていける地域づくりを目指し、生活環境や家庭生活、子育てに安心と希望を持ち「これからも住み続けたい」と思っていただけのようにまちづくりを推進してきました。

子育て世代の減少を主として1年に1%程度ずつの人口減少に歯止めがかからない今、子育てしやすい環境の整備が急務となります。合わせて高齢者や障がいを持つ方、縁あって住民になられた方への支援体制を強化するなど、各々の環境に即した生活しやすい環境を整備することで、一人でも多くの方に「このまち」に住んでいただくための施策を図ります。

#### 具体的な施策

##### 高齢者の生きがいづくり

・対価を得られる就労の場は限られていますが、人材不足の職種も多くあることから、生きがいをもって活躍できるよう地域における活動の場づくり支援を図ります。

・高齢者が介護を必要とせずに、元気で健康的な自立した生活を送るために地域の力を活用し介護予防事業を推進します。

##### 障がい者（児）の支援体制の充実

・障がい児の教育の充実として、保育所や幼稚園など各関係機関が連携し、障がいや発達の遅れの早期発見、早期療育を図るための支援を推進するとともに、特別支援教育の充実に向けて児童生徒の状況把握に努め、適切な指導を推進します。

・障がい者の就労の場の確保に向けて就労継続支援事業所への支援に努め、新たな雇用の場の確保を図ります。

##### 子育て支援の充実

・妊娠・出産・子育ての継続的な切れ目ない支援が求められていることから、妊娠期から子育て期まで包括的に把握し、支援する仕組みを構築します。

・子育てサロンをはじめとする子どもの交流事業や講座を実施するとともに、発達相談や専門家による支援事業を行い支援・相談体制の充実を図ります。

・安全に楽しく遊べる遊具が充実している公園の整備とともに、保守点検や維持管理を強化します。

・保育料・幼稚園保育料を無料化し経済的負担を軽減します。

・標茶高校の3間口を維持し、将来を含めて高等教育の拠点となるために、通学環境を改善し、生徒の確保に努めます。

##### 公共交通の確保

・町内に存在する交通機関（町有バス、阿寒バス、標

茶ハイヤー、介護タクシー)の再構築をすることにより、生活の足を確保します。

### 生涯学習活動の促進

・各文化団体や地域サークル等への人的支援を行うことで各団体の活性化を図り、高齢者の閉じこもり防止や健康の増進を図ります。

### 地域間交流等の推進

・不動産ネットワークをリニューアルし、町有地情報との統合や空き家などの情報の掘り起こし(広報紙や町内会、地域会への情報提供の呼びかけや契約方法などを提案)を図ります。

・地域定住促進のため、町有地の有効活用を図ります。  
・居住するための住宅を貸し出し、標茶町での実際の生活を体験できる「お試し暮らし住宅」事業の充実を図ります。

### ③ 元気が出るまちづくり

本町の元気の源は第1次産業であり、第1次産業の元気が第2次産業及び第3次産業の元気、ひいては「まちの元気」につながるとの思いから、農林水産業の振興と経営の安定化を目指し、地産加工品、商業、観光サービス業などの分野と連携し、生業に元気が出るまちづくりを推進してきました。

経済状況や国際情勢が厳しく変化する中で、これからは経営の安定化を基盤としながら新たな事業の創出や各産業における担い手の育成、外国人労働者確保の施設を充実させていくことを目指し、地域の活性化を図ります。

### 農林水産業の振興と経営の安定化

・就農者のための宿泊施設「しべちゃ農楽校」を活用し、農業系高等学校などの学生の酪農体験を実施することで、酪農の理解者を増やすとともに、将来的な担い手の確保を図ります。

・エゾシカやヒグマによる農林業、畜産業の鳥獣被害対策を推進し、また資源としての有効活用に向けた取り組みを進めます。

### 商工業の振興と経営の安定化

・消費品経営の安定化と買い物弱者の支援を図る出前商店街の取り組みを進めます。

・ふるさと納税制度を活用し、標茶町の特産品などを全国的にPRすることで地域経済の活性化を目指します。

### 雇用環境の安定化

・介護職員初任者研修の地元開催を誘致し、さらに参加費用の一部助成を行うことで、不足する介護職員の確保を図ります。

・地域の活性化を推進するため、トップセールスによる企業版ふるさと納税協力企業などの誘致や閉校施設を利用した事業展開を図ります。

・町内における就業機会の拡大を図るため、商工会と連携し、説明会の開催や情報の収集と発信に取り組みます。

### 観光基盤の整備と観光資源の保全

・観光振興の担い手の育成を図り、各産業団体のより緊密な連携のもと、本町が持つ観光資源を利用した商品開発や情報発信を行います。

・町内公共施設(観光施設を含む)等のリニューアルや案内標識等の整備や更新を推進します。

### ④ みどりのまちづくり

恵まれた水資源と自然環境のもとで発展してきた本町にとっては、水とみどり輝く大地は豊かな生活と持続可能な産業を維持していくために欠かせない財産です。

環境を守ることが生活と経済を活性化させるとの理念から、経済活力が環境を守るよう、環境と人・経済(産業)が調和するまちづくりを進めてきました。

今後もこの基本姿勢を維持しながら、本町の持つ財産を守り続けると同時に、有効な資源を最大限活用して産業のさらなる活性化を目指します。

### 具体的な施策

・バイオマス産業都市構想を策定し、家畜排せつ物や木質資源を活用したバイオガスプラントの設置を推進するとともに、環境に配慮した酪農産業の情報発信を行います。

・ゼロカーボンシティを目指し、脱炭素や再生可能エネルギーの活用などの施策を推進します。

## 5 おわりに

様々な課題に向き合いひとつずつ着実にクリアするとともに、先行き不透明な時代だからこそ果敢に挑戦し、標茶町が持つ無限の可能性を引き出し、町で暮らす方々と共に力を合わせながら、持続して発展する「もっと元気なしべちゃへ!!」を掛け声に標茶町の地方創生の実現へ全力で取り組んでいきます。